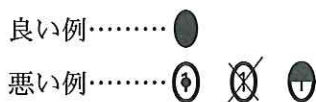


平成 23 年度入学試験問題

数 学

I 注 意 事 項

1. 指示があるまで、この冊子の中を見てはいけません。
2. 設問は I から IV まであります。
3. 解答用紙には解答欄の他に次の記入欄があるので、正確に記入しなさい。
  - ① 氏名欄……………氏名を記入しなさい。
  - ② 受験番号欄……………受験番号(6桁の数字)を記入し、受験番号をマーク欄に必ずマークしなさい。
4. マークにはHBの鉛筆を使用し、次の例のように、濃く正しくマークしなさい。



5. 正確にマークされていない場合、採点できないことがあります。
6. 答えを修正する場合は必ず「プラスチック製消しゴム」で完全に消し、消しくずを解答用紙上に残してはいけません。
7. 中途退場は認めません。
8. 試験中に質問がある場合は、手をあげて申し出なさい。
9. この冊子の余白を計算に用いてかまいません。
10. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰りなさい。

II 解答上の注意

解答上の注意が裏表紙に記載してあるので、この問題冊子を裏返して必ず読みなさい。ただし、冊子を開いてはいけません。

問題は次のページから始まります。

I 平面上に3点O, A, Bがあり,  $|\vec{OA}|=2$ ,  $|\vec{OB}|=3$ ,  $\vec{OA} \cdot \vec{OB}=2$ とする.

$|\vec{AB}|=\boxed{\text{ア}}$ である. 直線AB上に,  $\vec{AB} \cdot \vec{OC}=0$ となる点Cを取ると,

$$\vec{OC} = \frac{\boxed{\text{イ}}}{\boxed{\text{ウ}}}\vec{OA} + \frac{\boxed{\text{エ}}}{\boxed{\text{オ}}}\vec{OB}, \quad |\vec{OC}| = \frac{\boxed{\text{カ}}\sqrt{\boxed{\text{キ}}}}{\boxed{\text{ク}}}$$

となる.

$\angle AOB$ の二等分線と線分ABの交点をDとすると,

$$\vec{OD} = \frac{\boxed{\text{ケ}}}{\boxed{\text{コ}}}\vec{OA} + \frac{\boxed{\text{サ}}}{\boxed{\text{シ}}}\vec{OB}, \quad |\vec{OD}| = \frac{\boxed{\text{ス}}\sqrt{\boxed{\text{セ}}}}{\boxed{\text{ソ}}}$$

である.

$\angle AOB$ の二等分線と $\angle OAB$ の外角の二等分線の交点をEとすると,

$$\vec{OE} = \frac{\boxed{\text{タ}}}{\boxed{\text{チ}}}\vec{OD}$$

となる.

また, 点Eを中心とし, 線分ABに接する円の半径は $\boxed{\text{ツ}}\sqrt{\boxed{\text{テ}}}$ である.

- II (1) 1次変換  $f, g$  を表す行列を, それぞれ  $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 1 & -2 \end{pmatrix}$ ,  $B = \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ -2 & 1 \end{pmatrix}$  とする.

$A, B$  の逆行列  $A^{-1}, B^{-1}$  は,

$$A^{-1} = \frac{1}{\boxed{\text{ア}}} \begin{pmatrix} \boxed{\text{イ}} & \boxed{\text{ウ}} \\ \boxed{\text{エ}} & \boxed{\text{オカ}} \end{pmatrix}, B^{-1} = \frac{1}{\boxed{\text{キ}}} \begin{pmatrix} \boxed{\text{ク}} & \boxed{\text{ケコ}} \\ \boxed{\text{サ}} & \boxed{\text{シ}} \end{pmatrix}$$

となる.

点  $(1, 1)$  は合成変換  $f \circ g$  によって点  $(\boxed{\text{ス}}, \boxed{\text{セ}})$  に移動する. また, 合成変換  $f^{-1} \circ g$  による点  $(1, a)$  の像と, 合成変換  $f \circ g^{-1}$  による点  $(a, \beta)$  の像が一致するとき,  $a = \boxed{\text{ソタ}}$ ,  $\beta = \boxed{\text{チ}}$  となる. ここで,  $f^{-1}, g^{-1}$  はそれぞれ  $f, g$  の逆変換を表す.

- (2)  $C = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} -\sqrt{3} & 1 \\ -1 & -\sqrt{3} \end{pmatrix}$  とすると,

$$C^8 \begin{pmatrix} 2 \\ 0 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \boxed{\text{ツテ}} \\ \boxed{\text{ト}} \sqrt{\boxed{\text{ナ}}} \end{pmatrix}$$

となる.

Ⅲ  $f(x) = 2x^2 - 1$  として、以下の問いに答えよ。

(a) 2つの条件

$$\left. \begin{aligned} f(f(f(\cos \theta))) &= \cos \theta \\ f(\cos \theta) &\neq \cos \theta \end{aligned} \right\} \dots\dots(*)$$

を同時に満たす正の  $\theta$  のうち、最小のものを  $\alpha$ 、2番目に小さいものを  $\beta$  とすると、

$\alpha = \frac{\boxed{\text{ア}}}{\boxed{\text{イ}}} \pi$ ,  $\beta = \frac{\boxed{\text{ウ}}}{\boxed{\text{エ}}} \pi$  である。また、(\*) を満たす正の  $\theta$  のうち、3番目あるいは4番目に小さいものは  $\boxed{\text{オ}}$   $\alpha$  や  $\boxed{\text{カ}}$   $\beta$ 、5番目あるいは6番目に小さいものは  $\boxed{\text{キ}}$   $\alpha$  や  $\boxed{\text{ク}}$   $\beta$  と表すことができる。

(b)  $x$  の多項式  $f(f(f(x))) - x$  は、 $f(f(f(x))) - x = (f(x) - x)g(x)h(x)$  と表せる。

ただし、

$$\begin{aligned} g(x) &= \boxed{\text{ケ}} x^3 - \boxed{\text{コ}} x + \boxed{\text{サ}}, \\ h(x) &= 8x^3 + \boxed{\text{シ}} x^2 - 4x - \boxed{\text{ス}} \end{aligned}$$

である。

(c)  $g(\cos \theta) = 0$  を満たす  $\theta$  に対して、 $\cos 3\theta = \frac{\boxed{\text{セソ}}}{\boxed{\text{タ}}}$  が成立する。

また、 $h(\cos \beta) = \boxed{\text{チ}}$  となる。

(d)  $\alpha, \beta$  に対し、次式が成立する。

$$\begin{aligned} \frac{1}{\cos \alpha} + \frac{1}{\cos(\boxed{\text{オ}} \alpha)} + \frac{1}{\cos(\boxed{\text{キ}} \alpha)} &= \boxed{\text{ツ}}, \\ \cos \beta + \cos(\boxed{\text{カ}} \beta) + \cos(\boxed{\text{ク}} \beta) &= \frac{\boxed{\text{テト}}}{\boxed{\text{ナ}}} \end{aligned}$$

IV 区間  $0 \leq x \leq \pi$  において、二つの曲線  $y = \sin x$ ,  $y = \sin 2x$  を考える.

$x = 0$  と  $x = \pi$  の点を除く、二つの曲線の交点の座標を  $(\alpha, \beta)$  とすると、

$$\alpha = \frac{\boxed{\text{ア}}}{\boxed{\text{イ}}} \pi, \quad \beta = \frac{\sqrt{\boxed{\text{ウ}}}}{\boxed{\text{エ}}}$$

である.

二つの曲線の差  $\sin x - \sin 2x$  が極小となる  $x$  の値を  $x_1$ , 極大となる  $x$  の値を  $x_2$  とすると、

$$\cos x_1 = \frac{\boxed{\text{オ}} + \sqrt{\boxed{\text{カキ}}}}{\boxed{\text{ク}}}, \quad \cos x_1 \cos x_2 = \frac{\boxed{\text{ケコ}}}{\boxed{\text{サ}}}$$

が成り立つ.

二つの曲線によって囲まれる図形の面積は、 $\frac{\boxed{\text{シ}}}{\boxed{\text{ス}}}$  となる. また、この図形の  $\alpha \leq x \leq \pi$  の

部分を、直線  $y = -1$  のまわりに回転させてできる立体の体積は、

$$\left( \frac{\boxed{\text{セ}}}{\boxed{\text{ソ}}} + \frac{\boxed{\text{タ}} \sqrt{\boxed{\text{チ}}}}{\boxed{\text{ツテ}}} \right) \pi$$

である.